



図書館だより



2024年
9月27日発行

秋草学園高等学校 図書館

暑い暑いと言っているうちに、いつの間にか中秋の名月（2024年は9月17日）が過ぎてしまっていました。月を見るのに美しいといわれている次の機会は13夜（2024年は10月15日）です。ただ15夜と13夜は両方お月見をしないと縁起が悪いそうなので、今回はおだんご等の供えものはなしにして、ただ空を見上げるのにとどめるのが正解のようです。時はたゆまず進みます。みなさんも気を引き締めて取り組まなければならないと思うことが、日々山積みにあることでしょう。頑張る一方、時には自然の美しさや季節の移ろい、夜空のドラマにも目をむけてみませんか。

POPは推し活♡愛情表現

桔梗祭では体育館脇通路を“ブックロード☆2024”と銘打って、図書委員の製作したPOPをずらりと並べました。それを一つ一つ見ていくと、図書館に辿り着き、紹介された本を手にとって見られる趣向でした。大変好評で、中には読みたい本があったので借りてきて欲しいと家族に頼まれた先生もいらっしゃったようです。

工夫を凝らしてPOPを作ってみるのは、自分の好きな本への愛情表現のようなもので、どんどん楽しくなり、さらにその本への理解が深くなったようです。

そこで提案です。皆さんもPOPを作りませんか？あなたの好きな本の素敵などころを、多くの人にお知らせするPOPを作り、図書館に展示しましょう！

図書館入り口左側に作業コーナーを設置します。図書館にある本でも、ない本でもかまいません。ぜひ、あなたの知っている“最高の1冊”を紹介してみませんか。

019-ホ 『本のPOPをつくろう！』

「本のPOPや帯を作ろう編集室」編 理論社

数年前から手書きのPOPが流行りです。本屋さんでもよく見かけませんか？書店員さんの手作りPOPがきっかけで、出版後数年の本がベストセラーになるなんてこともあるようです。実際のPOPを参考に基本から応用まで学び、あなたも好きな本を推しませんか。

538-カ 『はやぶさ、そうまでして君は』

川口 淳一郎 著 宝島社

桔梗祭でPOPで紹介された本の1冊です。世界で初めて小惑星(イトカワ)への着陸と離陸、そしてサンプル回収に成功した「はやぶさ」プロジェクトは、トラブル続きでした。満身創痍で帰還カプセルを放出後燃え尽きるはやぶさの姿は、特別な存在に思えてくるはずです。

司書の今月はこの本読みました

大好きだったのですが絶版のため、なかなか紹介することのできなかった本が、この度完全版として出版されました。『歌う船』アン・マキャフリー 著 (B933-マ) 東京創元社。主人公ヘルヴァの趣味は“歌”。金属外殻に守られることによって生きのび、研究校を卒業すると宇宙船を体として得て、中央諸世界の頭脳(ブレイン)船としてキャリアを積みます。筋肉(ブローン)のジェナンとはよいチームで、二人でなら馬頭星雲まで行って帰れそうなどノリノリです。SFになじみのない人にも、ヘルヴァの活躍と成長は共感でき、勇気づけられます。【鈴木】

気になる秋ドラマの原作

913.6-イ 『宙わたる教室』

伊与原 新 著 文藝春秋



窪田正孝さん主演ドラマの原作は、「はやぶさ2」の後継機開発の基礎実験に大阪の定時制高校科学部が参加した実話が、もとになっています。事情を抱え定時制高校に集った多様な生徒たちと、科学教師。彼らの火星再現実験は奇跡を呼びます。“学校には、何だってある。何だってできる。”

933-ク 『将軍』

ジェームズ・クラベル 著 扶桑社



エミー賞で史上最多の18部門を制覇し話題のTVドラマ『SHOGUN 将軍』(ディズニープラスのスターにて配信)。

日本に難破した英国人の視点による戦国時代が、海外の人にも理解し易かったようです。時代劇作品の少ない昨今、私たちも同じ感覚かもしれません。原作は英米文学です。

新着コーナーの気になる本

913.6-ナ 『お前の死因にとびきりの恐怖を』

梨 著 イースト・プレス

文芸部の部室で見つけたUSBメモリには、ある男子生徒の不可解な「死」に関する情報がまとめられていた。その情報の真相を探るホラーモキュメンタリーであり、青い物語。怖すぎないのでホラー初心者にもおすすめです。

913.6-ニ 『全員犯人、だけど被害者、しかも探偵』

下村 敦史 著 幻冬舎

不祥事を起こした会社の社長が社長室で亡くなっていた。社長の死に関わる7人が廃墟に集められた。生きて脱出できるのは犯人のみというアナウンスが流れ、我こそは犯人だと各々が主張を繰り広げる。社長殺しの犯人であり、デスゲームの被害者であり、他者の自白を暴く探偵。真犯人は誰なのか!?

